

関オケだより 2025 年度下半期 vol.1

初冬の候、OBOG の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

6月に開催いたしました第48回サマーコンサートは多くの方にご来場いただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。

さて、この度は12月12日（金）に開催いたします第77回定期演奏会のご案内、関大オケの近況、団長挨拶、学生指揮の意気込み、以上をご報告すべく関オケだよりをお送りさせていただきます。

【団長挨拶】

冬枯れの季節を迎えたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。関西大学交響楽団第75代団長の安部将慶です。

6月21日に開催いたしましたサマーコンサートでは、OBOG の皆様にご協力いただき、大成功を収めることができました。そして、12月12日には、豊中芸術文化センターにて第77回定期演奏会を控えております。1回生から4回生までが揃うこの大舞台で、今回は「チャイコフスキイ交響曲第5番」という大曲を演奏いたします。今年度の基本方針に掲げた「煌」という文字通り、会場全体を煌めかせるような、活気溢れる演奏をお届けいたしますので、ぜひお越しください。

このように日々活動できるのも、ひとえにOB・OG の皆様のご支援があってこそだと、深く感じております。団員を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。今後とも関西大学交響楽団をよろしくお願ひいたします。



第75代団長 安部将慶

【第 77 回定期演奏会のご案内】

第 77 回定期演奏会

日時：2025 年 12 月 12 日（金）開場 17：30 開演 18：30

場所：豊中市立文化芸術センター 大ホール

曲目：C.M.v. ウェーバー：歌劇「魔弾の射手」序曲 作品 77 学生指揮 出口礼人

チャイコフスキー：幻想序曲「ハムレット」作品 67 学生指揮 溝上瑛斗

チャイコフスキー：交響曲第 5 番 ホ短調 作品 64 客演指揮 藏野雅彦

豊中文化芸術センターへのアクセス

・阪急宝塚線 「曾根駅」 東へ徒歩 5 分

（お越しいただく際は、公共交通機関のご利用をお願いいたします。）

【近況報告】

今年も 9 月 6 日から 11 日にかけて、兵庫県・鉢伏高原のみやま壮大にて夏合宿を行いました。新たに一年生が加わり、四学年が揃っての活動となり、定期演奏会に向けて音楽に集中した本格的な練習に取り組むことができました。

合間には BBQ や花火などのレクリエーションも行い、団員同士の親睦を深める良い機会となりました。また、合宿最後の恒例行事「夏の団内発表会」では、大賞を目指したアンサンブルや年次オーケストラ、さらには自作した総譜による演奏などもあり、熱意と個性に満ちた演奏が繰り広げられました。

現在は藏野先生のご指導のもと、団員一丸となってより良い演奏を目指し、苦戦しながらも日々練習に励んでおります。定期演奏会では、新しくなった関大オケらしい迫力ある演奏をお届けできると思います。ぜひご来場ください。

♪学生指揮の意気込み

【2025年度 正指揮者 溝上瑛斗】

冬の澄んだ空気が心地よく、夜空の星がいっそう輝く季節となりました。いかがお過ごしでしょうか？正指揮を務めております、Vnパート3回生の溝上瑛斗です。

今回の定期演奏会で私が指揮をさせていただく曲は、チャイコフスキー作曲の幻想序曲「ハムレット」作品67です。シェイクスピアの四大悲劇のうちの1つの作品を元に作曲されており、陰鬱な様子をあらわした曲となっております。

舞台はデンマークで、ある日国王が毒殺されてしまい、息子であり王子であったハムレットが復讐を誓います。物語が進むたびに復讐や思惑、愛と疑惑がそれぞれ交錯していく、その中でハムレットが自身の決意をかなえるために奮闘するお話です。恋人との甘い恋愛の様子や、友人たちとの仲睦まじい様子などが冒頭で登場する反面、後半ではその光景がまるで幻だったかのような裏切と絶望が次々とハムレットを襲います。

ドラやスネアなどのオーケストラには珍しい打楽器や金管による壮大なスケールでの音楽、また、Obを主役とした木管楽器による繊細なアンサンブル、弦楽器のチャイコフスキーらしい強烈で悲壮的なメロディーなど、それぞれの楽器の特徴や長所を最大限引き出すような、大変難しく、そして面白い曲です。

平素より、団員の活動への温かいご理解と、多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。演奏会では、最高の演奏を皆様に届けられるように精一杯頑張ります。

【2025年度 副指揮者 出口礼人】

関西大学交響楽団で副指揮を務めております、Tpパート2回生の出口礼人と申します。

この度、私が指揮をさせていただく作品は、カール・マリア・フォン・ウェーバー作曲《魔弾の射手 序曲》です。

私は、この音楽を貫いているテーマは「無垢への憧れ」だと感じています。悪魔の誘惑に揺れ動くマックス、疑惑によって心を曇らされるアガーテ。二人は一度、光から遠ざかってしまいます。しかし、物語の終盤に響くまばゆい C-dur の和音は、悔い改めた者に差し出される救いであり、失われた無垢へと近づく「希望」の象徴です。

不安に満ちた序奏から始まるこの序曲は、罪と赦し、闇と光を見事な対比によって描き出します。そのコントラストこそが、この作品が200年以上にわたり愛され続けてきた理由であり、同時に私たち自身の生き方にも静かに問いを投げかけています。

この名作が内包する「希望」を、まっすぐにお届けできるよう、誠心誠意取り組んでまいります。

ぜひ、豊中市立文化芸術センターへお越しください。